



かもみーる通信

CONTENTS

- * 工学部の活動紹介
- * シンポジウム
- * 連携型共同研究成果報告会
- * 人財バンク
- * 地域科学部社会活動演習
- * 保育園たより

「工学部多様な人材参画推進室」の活動紹介

副学長（多様な人材活力推進担当） 林 正子

森脇久隆 学長を議長とする3月1日（木）開催の第14回「多様な人材活用推進会議」で、野々村修一 工学部長より多様な人材活力推進に係る工学部の取り組みが報告されました。ここに、その精力的な活動の一部をご紹介します。

工学部では、「多様な人材」による切磋琢磨によって、組織の発想の創造性・革新性、変化への柔軟性を高めることを目的として、「工学部多様な人材参画推進室」が設置されました。当該の「推進室要項」（2017年10月1日 工学部長裁定）によれば、副学部長（室長）、入試担当学部長補佐、工学部選出男女共同参画推進室員、全学科から各1名、その他室長が必要と認めた者で構成され、女性教員の在職比率の向上や教授・准教授の上位職への登用についても所掌事項とされています。

全国的に工学系の女子学生が少ないことにより、教員になれる人材も不足していることから、まず2017年度は、女子学生の増加に向けた取り組みが展開されました。11月には女子学生の最も少ない電気電子・情報工学科、また、2018年1月には、機械工学科在籍の女子学生を対象とする座談会が開催され、参加女子学生から、「これまで孤立していて寂しい思いをしていたけれども、学年を越えたネットワークができて本当に良かった」との声が寄せられたとのこと。

同じく1月には、アメリカのNational Institutes of Health (NIH) に長期留学した女子学生を講師とする体験講演会において、頼もしいロールモデルが提示され、3月には、「多様な人材参画推進室」主催のテニユアトラック教員との懇談会（昼食会）において、工学部の未来を担う若手教員のネットワークが構築されました。

全学組織の「男女共同参画推進室」に対応する各部局組織の構築に向けて、「工学部多様な人材参画推進室」の活動にエールをお送りするとともに、各部局におかれましても、工学部の画期的な取り組みが「ロールモデル」として活かされますよう、心より願っています。構成員の皆様のご理解、ご協力、どうぞよろしくお願い致します。



シンポジウム

2月14日（水）、シンポジウム「『清流の国輝くギフジョ』による地方創生に向けて」が、126名の参加者を得て開催されました。ここに、好評を博した渥美由喜氏による基調講演の概要を紹介します。

基調講演：「女性の活躍と大学・企業の役割—岐阜発の新しい産学連携に向けて—」



▲ 渥美 由喜 氏

民間のシンクタンクで激務をこなしていた渥美氏。当時、「ワーク・ライフ・バランス」を上司に直訴したが「無理」と言われ、自分で研究をし始めた。転職の際も妻がしっかり働いていたので、迷うことなく決断できた経験から、「共働きは失業保険」と考えている。1歳（当時）の子どもに腫瘍が見つかった時、医者から「良く見つめましたね。あと数週間遅かったら命がなかったですよ」と言われ、当時、新聞に取り上げられるほど珍しかった「男性の育休取得」をしてよかった、と本当に思ったという。育休の時のふれあいによって子どもをしっかりと観察していたからこそ発見できたのだと考え、「イクメン」という言葉の発案者として、男性も絶対に育休をふくめた家事・育児参加が必要だと主張する。

ダイバーシティとは「多様性」ではなく、「適材適所」であると意識している。発達障害である自分自身が親からされた教育から、「苦手なことがあっても、得意なところを伸ばして他の人より秀でればいい」ということ、できないことを減点するのではなく、できることを評価する「加点主義」を学び、部下の教育に役立っている。

女性活躍には「ケア」「フェア」「シビア」の3つの段階があり、第一段階では、ライフイベントと両立する女性が増えてくるので「ケア」が必要になるが、第二段階では、女性だからと言って昇進の道を閉ざさないような「フェア」な対応が必要となる。現在は第三段階にきており、どんな女性であろうと、「配慮」はするが「遠慮」はせずに、本人の希望・能力に合わせて仕事をさせて、上位職に登用できるキャリアを提供することが、現在の女性活躍には必要である。

女性活躍で大事なことは、対立関係を固定しないことである。男性vs.女性という対立だけでなく、女性同士の対立にも気をつけなければならない。育児期なので支援の必要な女性とその同僚の女性の間で対立が起き、支援の必要な女性への配慮を上司が強制しても、その不満は消えずに持ち続け、「仕事に制限のある育児女性vs.仕事をやらされるその他の女性」という構図が固定されてしまう。そうではなく、「配慮が必要な時は支援し、他の人が支援を必要としたときに恩返しをする気で最大限頑張らせる」ことにより、「お互い様なのだ」という意識を持たせることができる。また、部下に子どもが生まれた時は、なるべく職場に連れてきて、同僚に抱っこさせるように勧めている。自分の知らない子どもが熱を出したと言われても、「また仕事を押し付けられる」としか思わないが、自分の腕に感触が残っている子どもであれば、「ああ、あの子が熱出しているなんてかわいそう。早く帰ってあげて」という気持ちになるからだ。つまり、「配慮」は必要であるが、「配慮のし過ぎ」は同僚にとっても、また、キャリアアップを目指す本人にとってもいいことではない。

ダイバーシティの推進は、「働き方改革」が大前提である。それには、無駄ではないが不必要な業務とは何かを常に考え、『ジェンガ（木の棒を積み上げて一本ずつ抜いていき、倒れさせた人が負けというゲーム）』式仕事術にすべきである。基礎的な業務を多く積み上げて、頂上に最良の成果を出すという、今までの『ピラミッド』方式では、高品質で堅実な成果が得られるが、多大な時間がかかってしまう。「働き方改革」には、『ピラミッド』ではなく『ジェンガ』で進めるべきである。高さ（成果）を出す前に、プロセスを検討し、効率的な進め方をまず考えれば、最速・最短で一定の成果を得ることができる。時には、「70点主義」で完璧を求めず、過剰品質や過剰サービスもやめるべきなのである。

ダイバーシティは「良かった作り」だという。障がい者の職場を担当した際に、こんな当たり前の仕事なのに「仕事ができうれしい、ありがとう」と言われたことに感動した経験から、「ありがとう」探しを始めたところ、職場の雰囲気がとても明るくなったそうである。また、自身が父の介護をしている経験から、「何もできなくなる」のではなく、「その時できること」を探して父にやってもらい（買い物など）、「ありがとう」ということによって、その場が明るくなるのである。ワーク・ライフ・バランスは、そのような「周りを照らすことができる」人間をつくりだす「幸せの道しるべ」なのである。



連携型共同研究成果報告会

2月27日（火）の15:00~18:00、68名の参加者を得て、連携型共同研究成果報告会が開催されました。2分野（プロポリス・食品・その他と医・薬学系研究）12件の共同研究について、それぞれに講評者のコメントと質問を受けました。ほぼ全ての研究テーマに質問やコメントがあり、次の研究につながるような活発な議論が展開されました。最後は、杉戸理事の総評と林副学長の閉会挨拶で締めくくられ、女性研究者の活躍が確認できる成果報告会となりました。



人財バンク

女性研究者支援のための人財バンクは、平成27年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（連携型）」のプロジェクトの一環として、研究補助員等を求める岐阜大学・岐阜薬科大学・岐阜女子大学・アピ株式会社からの人材照会に応じるとともに、研究を中断している女性研究者が研究補助員等としてその専門性をいかして再チャレンジすることを支援するものです。研究補助員等をお探しの男性研究者の方も、ぜひご利用ください。

男女共同参画推進室WEB

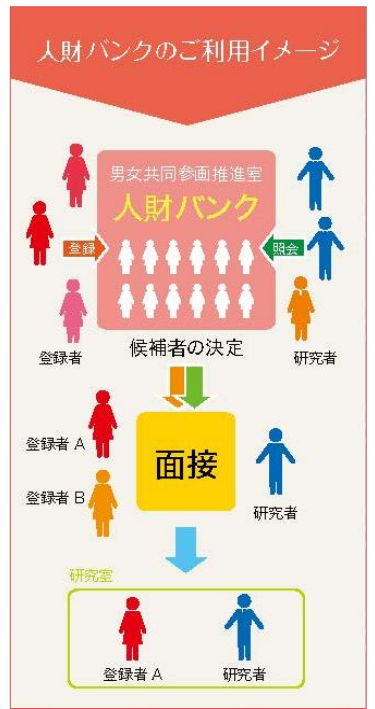
利用案内には、人財バンクの**利用方法**や登録者向けの情報も掲載しています。

男女共同参画推進室WEBから、登録者リストをご覧いただけます。↓

氏名	所属	専攻	研究テーマ	研究内容	研究期間	備考
山田 花子	岐阜大学	理学部	化学	有機合成	2018.04~2019.03	研究を中断している
田中 太郎	岐阜薬科大学	薬学部	薬学	創薬	2018.04~2019.03	研究を中断している
佐藤 美咲	岐阜女子大学	文学部	言語学	言語学	2018.04~2019.03	研究を中断している
鈴木 健一	アピ株式会社	工学部	工学	機械工学	2018.04~2019.03	研究を中断している

詳細情報をご覧になりたい登録者がリスト上にありましたら、「**利用申込書**」にてお知らせください。利用申込後は、男女共同参画推進室で全登録者の詳細情報をご覧いただくこともできます。候補者が見つかりましたら、あとは直接連絡や面接をおこなっていただけます。

採用検討終了後は、**採否にかかわらず「経過報告書**」にてお知らせください。



<https://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/activity/07.html>

地域科学部の社会活動演習

2月17日(土)

地域科学部1年生が企画する「地域の子育て支援」イベント(社会活動演習)が、男女共同参画推進室の後援で開催され、9組30人(0歳~9歳までの子ども18人)と21名の学生が、ゲーム、リッツパーティー、ダンスなどを満喫しました。この企画も6年目を迎え、発展的なプログラムを展開することができました。

みんなと一緒に
リッツにトッピング
楽しい~美味しい☆



お兄さん、お姉さんと一緒にゲームをしたよ!



リッツパーティー、おやつ時間も大満足!

節分会

保育園たより

2月2日(金)に節分会をおこないました。園児たちは、大きな鬼にも負けずに果敢に戦いました。

